資料2

既存ルートの走行環境に関する情報提供（案）



走行環境に関する情報提供（案）

○整備状況、危険個所等について、各ルートが一定のルールにより情報を発信しているが、統一されていないためナショナルサイクルルート間での比較や分かりやすさに課題。
→　下記ルールにより、12ルートについて発信項目・アイコン・注意表記を共通化し、情報発信することとしたい

【通行空間の整備】

通行空間の状況を分類し、その属性をまとめる形で表記

	整備形態	交通量条件	道路空間条件	表記	地図上表記
要件対応区間	自転車歩行者専用道路			自転車用の区間	
	自転車道				
	自転車専用通行帯			車道を通る区間 （自転車の通る幅がある区間）	
	車道混在 （矢羽根型路面表示設置）	交通量10,000台/日未満			
		交通量10,000台/日以上	路肩幅員1.5m以上		
	車道混在（矢羽根型路面表示なし）	交通量10,000台/日未満	路肩幅員1.0m以上		
要件未対応区間	車道混在（矢羽根型路面表示設置）	交通量10,000台/日以上	路肩幅員1.5m未満～1.0m以上	車道を通る区間 （自転車の通る幅が狭い区間）	
			路肩幅員1.0m未満	車道を通る区間 （自転車の通る幅が非常に狭い区間）	
	車道混在（矢羽根型路面表示なし）	交通量10,000台/日以上		車道を通る区間 （矢羽根がない区間）	
		交通量10,000台/日未満	路肩幅員1.0m未満		

走行環境に関する情報提供（案）

【走行環境に関する注意喚起】

通行空間の危険個所について、その情報をわかりやすいアイコン等を用い標記する

＜注意喚起の項目＞

- 要件に記載のある急勾配、交通量が多い区間（路肩の狭い区間を含む）のほか、踏切など特に走行上の注意を要する事項についての注意喚起を実施

＜基準値の考え方＞

基準値は以下の考え方を基本として設定。

- 急勾配は5～8%未満、8%以上で注意喚起を実施してはどうか
- その他については要件に記載のある項目が達成できない箇所や踏切や変形交差点などを対象としてはどうか

危険個所の分類	アイコンイメージ	基準値など	備考
急勾配区間		5%～8%	
		8%以上	
自動車交通量が多い区間		交通量10,000台/日以上の区間	
その他の注意事項		走行上注意を要する事項について表示	踏切、変形交差点、要件項目が達成できていない箇所等

▼標記についての検討項目

- 自動車交通量10,000台/日以上＆外側線外側が1.5m未満の区間については、走行環境として注意を喚起するため、通行空間に係る情報提供に加えて、アイコンでも注意喚起すべきか
- 未整備区間のなかでも、特に危険と考えられる、センターラインがあり路肩の狭い区間（規制速度が30km/超となることが想定）について、アイコンで注意喚起すべきか

自動車交通量が多く、自転車の通る幅が狭い区間		交通量10,000台/日以上 ＆外側線の外側が1.5m未満	通行空間の整備状況における「自転車の通る幅が狭い区間」「自転車の通る幅が非常に狭い区間」と同一
自動車の速度が速く、自転車の通る幅が狭い区間		交通量10,000台/日未満 ＆矢羽根型路面表示なし ＆センターラインがある ＆外側線外側が1.0m未満	